

第2回消化器外科治療学セミナー・北信がんプロFD講演会

肝細胞癌治療の最前線

改訂診療ガイドラインから

最新の薬物療法のエビデンスまで

2022年1月25日（火） 18:00-19:30

金沢医科大学医学教育棟4階 E41講義室

Webexでの参加も可能。ご希望の方は
d-gakuin@kanazawa-med.ac.jpまで
お問い合わせください。



山下竜也先生

金沢大学先進予防医学研究センター
金沢大学附属病院消化器内科
准教授

日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会消化器病専門医・指導医・学会評議員
日本肝臓病学会肝臓専門医・指導医・評議員
日本門脈圧亢進症学会評議員、日本超音波医学会代議員
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 他

ご略歴

- 1993年 金沢大学医学部卒業、附属病院内科 研修医
- 1995年 金沢大学がん研究所分子生物学部門
- 1998年 金沢大学大学院医学系研究科 修了
- 1999年 金沢大学医学部附属病院 医員
- 2001年 同 助手
- 2006年 金沢大学大学院医学系研究科 講師兼任
- 2007年 金沢大学医学部附属病院 助教
- 2009年 金沢大学地域医療教育学 特任教授
- 2012年 金沢大学附属病院地域医療教育センター 特任教授
- 2014年 世界保健機関（WHO）エイズ部肝炎プログラム 医官（出向）
- 2016年 金沢大学附属病院消化器内科 講師
- 2018年 金沢大学先進予防医学研究センター 准教授（現職）

肝臓診療ガイドラインが2021年10月に改訂された。ガイドラインの中で頻用されるものはアルゴリズムであるが、診断アルゴリズムでは本版からCTとMRIと2つのアルゴリズムに分けられ、Gd-EOB-DTPA MRIがより診断に重要とされるようになった。治療アルゴリズムでは本邦で行った多施設共同ランダム化比較試験にて肝切除とラジオ波焼灼術（RFA）を比較したSURF試験の結果を反映して3cm以下、3個以下では切除とRFAは等しく推奨されるようになり、RFAの役割がさらに重要になった。肝外転移や脈管侵襲および多発例では薬物療法が推奨されている。近年肝細胞癌に対する薬物療法の進歩も目覚ましく、昨年からがん免疫療法が用いることができるようになり、本邦では6つの治療レジメを用いることができることから本改訂から新たに薬物療法アルゴリズムが追加された。

今回、改訂された肝臓診療ガイドラインを中心に、リソースの限られたなかで重要性の増したRFAを適切に行うための注意点、最近さらにポジティブな結果が報告されている肝細胞癌に対するがん免疫療法の最新の話を含めて概説する。

担当：金沢医科大学 一般・消化器外科学 高村博之教授

共催：北信がんプロ

問い合わせ先：金沢医科大学教学課（大学院医学研究科担当）

d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp



マスク着用のうえ、ご参加願います。